

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90220	西洋音楽史研究	4単位 通年	1・2	講義	向井 大策

■テーマ 作曲家の個人様式と時代様式の関係について考察する。

■授業の概要

クロード・ドビュッシー（1862～1918）とモーリス・ラヴェル（1875～1937）のピアノ音楽や管弦楽曲、歌曲、室内楽曲などをとりあげ、この両作曲家の個人様式の共通性と違いを、楽曲分析と美学的な背景に関する考察を通して明らかにする。とりわけ、このふたりの作曲家が、文学・絵画などの音楽以外の分野との「照応（コレスポンダンス）」を通じ、どのようにして独自の音楽様式を確立していったかを、「バル・エポック」と呼ばれた、この時代特有の文化的背景を通して考察したい。

■到達目標

- ・和声やテクスチュアの面において複雑な面をもつドビュッシーとラヴェルの音楽を分析的な観点から理解する。
- ・ドビュッシーとラヴェルが独自の音楽様式を確立するに至った、文化的・美学的な背景について理解する。
- ・ドビュッシーとラヴェルの個人様式を把握することで、作品研究や演奏解釈の手がかりをつかむ。

■授業計画・方法

講義形式の解説と分析を中心にしつつ、参加者の構成を見ながら、参加者による研究発表・演奏等の機会も交え、両作曲家の音楽への理解を実践的に深めていきたい（したがって、以下の授業計画は、参加者の構成によって変更される可能性もある）。

前期

1. 導入
2. ドビュッシー、ラヴェルとその時代 概説 (1)
3. ドビュッシー、ラヴェルとその時代 概説 (2)
4. ドビュッシーのピアノ音楽の分析 (1)
5. ドビュッシーのピアノ音楽の分析 (2)
6. 参加者の研究発表 (1)
7. 参加者の研究発表 (2)
8. ドビュッシーの管弦楽曲の分析 (1)
9. ドビュッシーの管弦楽曲の分析 (2)
10. 参加者の研究発表 (3)
11. 参加者の研究発表 (4)
12. ラヴェルのピアノ音楽の分析 (1)
13. ラヴェルのピアノ音楽の分析 (2)
14. 参加者の研究発表 (5)
15. 参加者の研究発表 (6) / 前期のまとめ

後期

16. 後期の導入
17. ドビュッシーとラヴェルの歌曲の分析 (1)
18. ドビュッシーとラヴェルの歌曲の分析 (2)
19. 参加者の研究発表 (6)
20. 参加者の研究発表 (7)
21. ドビュッシーとラヴェルの室内楽曲の分析 (1)
22. ドビュッシーとラヴェルの室内楽曲の分析 (2)
23. 参加者の研究発表 (8)
24. 参加者の研究発表 (9)
25. ラヴェルの管弦楽曲の分析 (1)
26. ラヴェルの管弦楽曲の分析 (2)
27. 参加者の研究発表 (10)
28. 参加者の研究発表 (11)
29. ドビュッシーとラヴェルの音楽様式：差異と共通性
30. まとめ。定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・講義や研究発表でとりあげられる作品については、可能な限り、楽譜を準備すること。
- ・それぞれの回でとりあげられる作品については、事前に観賞し、概要を把握しておくこと。
- ・講義でとりあげる内容をより深く理解するために、以下に紹介する参考文献を、授業と平行して読み込んでいくことが望ましい。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 50%、研究発表 30%、期末レポート（前期・後期各1回ずつ） 20%

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化科学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 教員が配布する。

□テキスト 教員が配布する。

□参考文献 松橋麻利『ドビュッシー』（音楽之友社 作曲家・人と作品シリーズ）

ヴラディミール・ジャンケレヴィッチ『ドビュッシー——生と死の音楽』船山隆、松橋麻利訳（青土社）

アービー・オレンシュタイン『ラヴェル——生涯と作品』井上さつき訳（音楽之友社）

オリヴィエ・メシアン『メシアンによるラヴェル楽曲分析』野平一郎訳（全音楽譜出版社）